

## 13 施設設備

### 進捗状況報告

【13.0.1】情報インフラを最新のものに保つために、2006年度にPC演習室等のパソコンをリプレースした。また、理工学部IV号館内の空きスペースを研究用スペースとして活用することを検討した結果、レンタル・オフィスとして8ヶ所、レンタル・ラボとして7ヶ所の利用が可能であることが判明した。2006年度には、このうちレンタル・オフィス4ヶ所とレンタル・ラボ7ヶ所の整備を実現した。

【13.0.6】2006年度は、理工学部改組後の入学生の大学院進学に伴う各研究室所属の学生数の増加や研究機器の充実の影響を受け、利用可能な研究スペースの狭隘化が進行した。各教員は、研究室の生活環境に対しできるだけ注意を払ってきたが、対応には限界があり抜本的改善が望まれる。

【13.0.7】障がい学生として、2006年度には新たな対象学生はいなかった。2007年度入試で車椅子の学生1名、高機能自閉症の学生1名を迎えることになった。個別に対応することになる。キャンパス間のシャトルバスおよびJR新三田駅から神戸三田キャンパスまでのスクールバスの運行については、特に改善はない。しかし、神戸方面からの通学の便を意図して、三宮発で神戸三田キャンパス行きの直行バスを新たに運行し、かつ料金を減額することが、法人とバス会社の間で交渉が行われ、2007年度から実現されることになった。本学部生・院生にとっても利便性が向上し、受験生対策としても期待される。

【13.0.8】防犯ビデオカメラの設置を要望したが、予算割当てはなかった。管理体制については、2006年度に2件の火災が発生したことを受けて、実質的な危機管理ができるよう徹底的な見直しを行った。その結果、危機管理委員会の設置、各研究室の管理状況の査察と改善勧告、平日午後9時以降と休日の居残者の届出の徹底などの措置を実行した。

### 学内第三者評価

2006年度に2件の火災が起きたことについては十分な検証と反省がなされるべきであるが、その後、火災防止などの施設面での危機管理の態勢が築かれていることは評価できる。  
理工学部改組後に大学院進学割合が増えたことで生じた学生増に対して、研究室が狭隘化していることは課題である。